

横浜市病院安全管理者会議

令和7年度
薬剤部会 活動報告

「持参薬の運用」について

横浜市病院安全管理者会議 薬剤部会会則

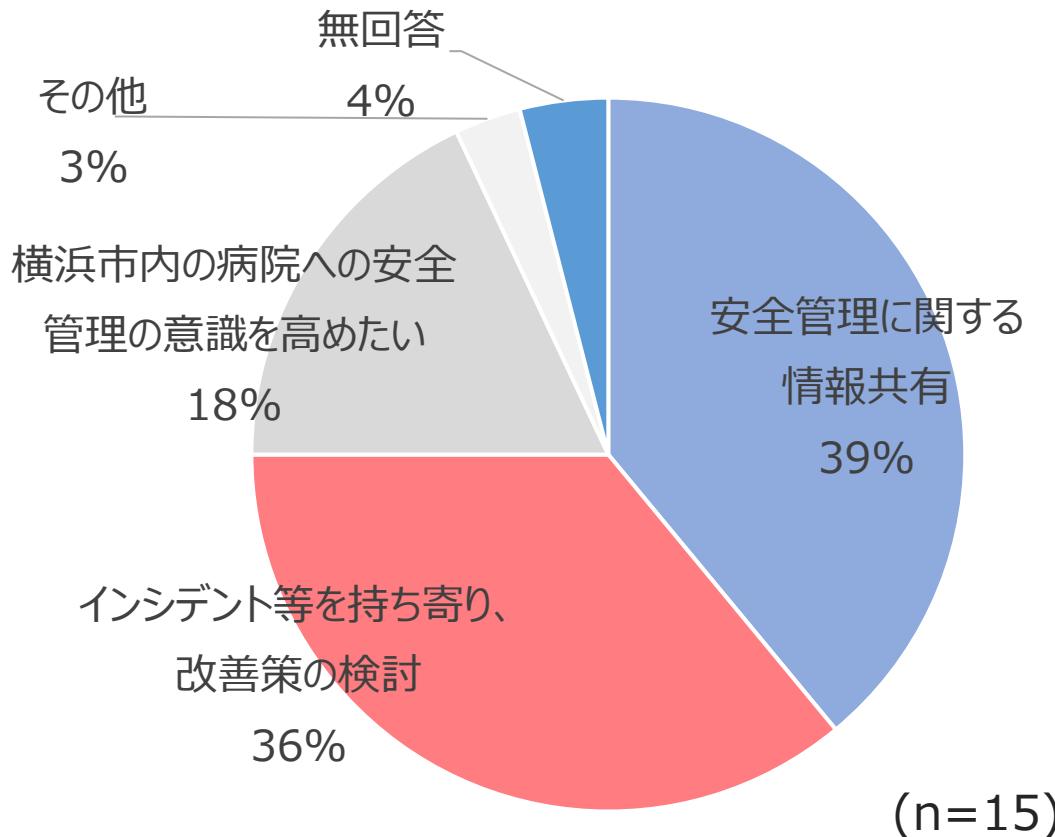
(目的)

横浜市内の市立病院等及びその他の病院における安全管理推進及び市内医療機関の医療安全向上、啓発、市内医療機関の医薬品安全管理体制の整備に係る施設間情報の共有・教育・研修内容をサポートすることを目的とする。

薬剤部会アンケート調査 (R6年度実施)

※調査対象：薬剤部会担当者（全13施設／15名）

どのような活動や会議内容を希望しますか。
(複数回答可)



今後取り上げて欲しいテーマ

・持参薬の安全な取り扱い

- ・インスリンの指示・インシデント対策
- ・マニュアル関連（安全マニュアル内の医薬品に関する記載、鎮静マニュアル）
- ・適応外使用
- ・インシデント報告向上への取組
- ・散剤の処方の在り方（原薬量／製剤量）

医療安全情報等で
度々発出されている内容であり、
令和7年度第1回のテーマとした

令和7年度第1回薬剤部会

テーマ：持参薬の運用について

- ・各施設における持参薬の使用有無（使用している場合は、そのルール）
- ・持参薬の確認方法（誰が・どのタイミングで確認し、どこに記録しているか）
- ・保険薬局との連携状況（服薬情報等提供料3を踏まえた対応）
- ・電子お薬手帳への対応
- ・持参薬に関連したインシデント事例と、それに対する改善策
- ・その他（困っていること、迷っていること 等）



各施設の取り組み状況、疑問点等の共有・意見交換



当院の持参薬確認業務

- 入院前

薬剤師の事前持参薬確認は、入院予定患者の約45%に介入

専用ブースは設けず、薬剤部投薬窓口で面談し、電子カルテに処方、アレルギー情報、休薬等を入力

- 入院日

- ・ 通常業務時間帯

病棟担当薬剤師がお薬手帳と持参薬を確認し、電子カルテに持参薬処方を入力

- ・ 夜間・休日時間帯

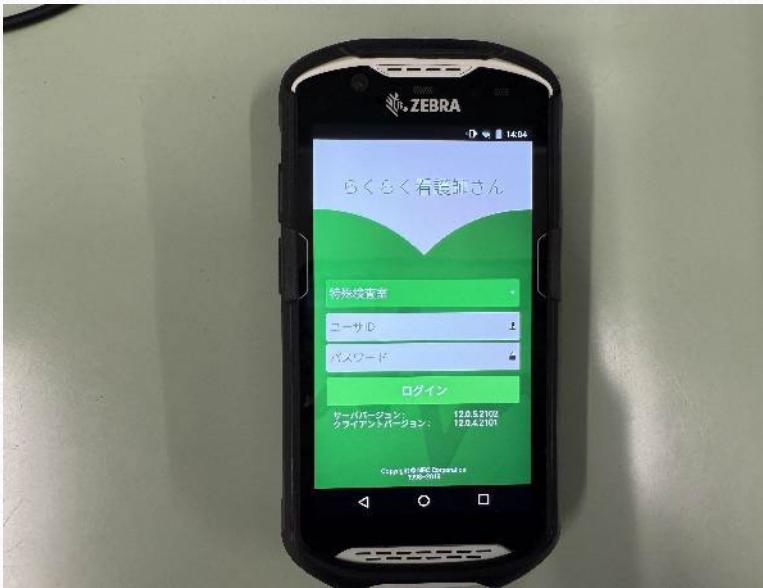
医師または看護師がお薬手帳を確認し、電子カルテに持参薬処方を入力

通常業務開始後に病棟担当薬剤師がお薬手帳の処方内容と電子カルテの持参薬処方を確認



参考) ある施設の取組

お薬手帳・電子手帳を電子カルテへ取り込む方法 「らくらく看護師さん」を使用



- お薬手帳・電子手帳は写真に撮り、カルテに取込む
- 退院処方を電子手帳に取り込む手段は現在、無い



結果！

- ・持参薬の使用状況：施設間で差異が確認された。
※一部、「原則、使用しない」運用を徹底している施設もあり。

・持参薬の確認方法

予定入院患者については、入院前からの介入が広がりつつある。

- ・対象は、施設間で差異あり(全患者／対象限定:手術患者のみ等)。
- ・課題:タイムラグ問題(入院前～入院) ▶ 結果的に、入院時に再確認が必要。

- ・電子お薬手帳への対応：ほぼ全施設で「課題」と認識されていた。

・持参薬に関する薬局との連携

効果的に運用できている施設は、少ない現状にあった。

※具体例：

病院として働きかけているが、十分なフィードバックが得られていない
どの程度フィードバックが得られているか正確に把握できていない

等

結果2 持参薬関連インシデント内容について

- ・共有された内容は、多くの施設の「共通課題」であった。
- ・各施設の工夫・対策についても共有された。

1) 休止薬の再開忘れ(抗血栓薬などで重大事例あり)

<対策例>

- ・再開漏れを防ぐための「オプショナルパス」の活用
- ・休薬・再開をテンプレート管理し、退院までに薬剤師が必ず再開状況を確認

2) 鑑別間違い

3) 持参薬と入院処方の重複投与／持参薬からの院内処方への切替間違い

4) 持参薬の返却忘れ

<対策例> 退院時チェックリスト化

まとめ

- ・持参薬に関する課題の多くは、施設によらず共通していた
- ・各施設が、「独自に」取り組んでいる工夫が存在していた



今後も、薬剤部会の活動・つながりを通じ、
各施設・地域全体で
医薬品安全の向上に努めていきたい。